

【伊賀市都市マスタープラン 進捗管理表】

進捗管理	都市づくりの目標	区域・場所等	本文	担当課	コメント	R3～R7年度実施事項	R7年度末の状態	R8年度以降実施予定
			※R3.12月策定の都市マスタープランに記載の本文を転記しています。		※調査依頼時点での当課（都市計画課）の想定する担当部署を記載しています。内容にそぐわない場合など、ご報告ください	※計画策定（R3.12月）以降の左記課題に関する実施事務内容や、そもそも実施不可になったものがあればその記載、または事務実施により課題解決済みであればその旨を記載ください	R7年度末の状態を想定で結構ですので、ブルダウンで選択願います。	※都市マスタープランはR3～R12までの10か年計画です。については、R8からR12までの期間における左記課題解決のための活動予定などについて記載願います。
必要	目標3 魅力的居住環境の確保	公共交通活用拠点	公共交通の拠点で、公共交通を活用した居住誘導を進める区域としてJR関西本線の伊賀上野駅周辺、佐那具駅周辺、JR関西本線と草津線の結節駅である柘植駅周辺及び近鉄大阪線の伊賀神戸駅周辺を位置付けます。	公共交通課	鉄道関係の進捗状況及び今後の取り組みについて記載してください。 リニア関連事業についても記載してください。			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	また、地域資源を活用した内発的発展を支える地域づくりを進めるため、第1次産業（農林業）等の高度化やコミュニティビジネスの創出等に努めます。	農林振興課 未来の山づくり推進室	農林業に対する取り組みについて基本的なことを記載してください。			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	また、新たな活動、起業・経営などの取組のための知的対流拠点では、農林産業の振興や移住者だけでなく関係人口（※1）の活動・つながりを支援する役割の強化に努めます。 ※知的対流拠点の例示（P.89）：①道の駅関連 ②伊賀上野観光協会DMO ③伊賀ふるさと農業協同組合 ④伊賀市未来の山づくり協議会、知的対流拠点の考え方（P.58参照願います）	商工労働課	例示されている知的対流拠点の活動内容、状況を記載			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	また、新たな活動、起業・経営などの取組のための知的対流拠点では、農林産業の振興や移住者だけでなく関係人口（※1）の活動・つながりを支援する役割の強化に努めます。 ※知的対流拠点の例示（P.89）：①道の駅関連 ②伊賀上野観光協会DMO ③伊賀ふるさと農業協同組合 ④伊賀市未来の山づくり協議会、知的対流拠点の考え方（P.58参照願います）	農林振興課	例示されている知的対流拠点の活動内容、状況を記載			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	また、新たな活動、起業・経営などの取組のための知的対流拠点では、農林産業の振興や移住者だけでなく関係人口（※1）の活動・つながりを支援する役割の強化に努めます。 ※知的対流拠点の例示（P.89）：①道の駅関連 ②伊賀上野観光協会DMO ③伊賀ふるさと農業協同組合 ④伊賀市未来の山づくり協議会、知的対流拠点の考え方（P.58参照願います）	観光振興課	例示されている知的対流拠点の活動内容、状況を記載			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	具体的展開は今後の課題ですが、農業、林业、伝統産業等の高度化のための拠点づくりを伊賀市地域福祉計画の目指す地域共生社会の実現に向けたまちづくりと連携して目指します。	農林振興課	産業振興と地域福祉計画の連携施策を記載してください。			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	具体的展開は今後の課題ですが、農業、林业、伝統産業等の高度化のための拠点づくりを伊賀市地域福祉計画の目指す地域共生社会の実現に向けたまちづくりと連携して目指します。	商工労働課	産業振興と地域福祉計画の連携施策を記載してください。			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	具体的展開は今後の課題ですが、農業、林业、伝統産業等の高度化のための拠点づくりを伊賀市地域福祉計画の目指す地域共生社会の実現に向けたまちづくりと連携して目指します。	医療福祉政策課	産業振興と地域福祉計画の連携施策を記載してください。			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	現在の知的対流拠点候補としては、農業・林业・観光等の地域産業と地域福祉が連携したまちづくりの拠点として「道の駅あやま周辺」を道の駅の活用拠点、農産品の6次産業化の拠点として「伊賀ふるさと農業協同組合」を農産品等の活用拠点、また、森林の魅力創造及び木材利活用等に取り組む知的対流拠点として「伊賀市未来の山づくり協議会」（※2）を森林資源等の活用拠点と位置付け、地域資源を活用し、林业の発展に取り組みます。	商工労働課	「道の駅あやま」について 「伊賀市未来の山づくり協議会」について			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	現在の知的対流拠点候補としては、農業・林业・観光等の地域産業と地域福祉が連携したまちづくりの拠点として「道の駅あやま周辺」を道の駅の活用拠点、農産品の6次産業化の拠点として「伊賀ふるさと農業協同組合」を農産品等の活用拠点、また、森林の魅力創造及び木材利活用等に取り組む知的対流拠点として「伊賀市未来の山づくり協議会」（※2）を森林資源等の活用拠点と位置付け、地域資源を活用し、林业の発展に取り組みます。	未来の山づくり推進室	「道の駅あやま」について 「伊賀市未来の山づくり協議会」について			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	また、地域文化と定住環境が調和する持続的な観光を実現していくため、地域が主体となってあらゆる資源を生かし、交流と活力を生み出す「観光まちづくり」の考え方を基本として、「伊賀上野観光協会DMO」を観光資源の活用拠点と位置付け、来訪者満足度を高める「観光まちづくり」を推進します。また、上野城下町地区や市内に貯蔵する歴史・文化及び自然環境は、伊賀市の貴重な観光交流資源と位置付け、施設間のネットワーク等に努めるなど積極的な活用を図ります。	観光振興課	左記によりどのような取り組みをされているか？ 今後どのような取り組みを検討しているか？			
必要	目標5 魅力的な働く場の確保	全域	なお、観光を含め産業振興には広域化及びブランド化が重要であり、そのためにも「伊賀・山城南・東大和定住自立圏」（※3）の各団体や近隣市の名張市、甲賀市、亀山市とも連携して進めます。	観光振興課	・観光振興の広域化のとりくみ ・伊賀・山城南・東大和・定住自立圏のとりくみ 伊賀市、甲賀市、亀山市、名張市との連携のとりくみ			

一部抜粋